

友史会2024年9月例会

「刀剣の里・備前長船を歩く」

- ・9月15日(日) 午前10時 JR長船駅集合
- ・案内 伊東菜々子(学芸課技師)
- ・コース : JR長船駅→妙興寺→福岡市跡ほか備前福岡の町並み→備前大橋
→慈眼院→城の内(長船城跡)→鞆負神社・備前長船刀剣博物館

【例会だより】

日本刀の産地の一つ備前の、とりわけ有名な長船の地を訪ねる例会。備前長船刀剣博物館は、国宝「太刀無銘一文字(山鳥毛)」の展示期間中で、事前に各自で入館予約をする必要があった。昨今の刀剣ブーム、定員の残数を心配しながら電話をかけると、意外とすんなり予約ができた。例会当日は真夏日だった。暑さ対策をしてJR長船駅へと向かう。駅前には刀剣博物館の幟旗が立ち並び、予約した十四時が待ち遠しくなる。駅から二十分程、のどかな田んぼ道を歩くと妙興寺に到着。境内には黒田家や宇喜多興家の墓所がある。墓参者の邪魔にならぬよう、大きな銀杏の木の下で伊東先生の説明を受ける。九州「福岡」の地名が、ここ「備前福岡」に由来していることを初めて知る。また、「山鳥毛」の見学に設けられた制限時間を踏まえ、刀剣の種類や特徴、見所を併せて解説して下さる。寺を後にして、福岡の市跡へと向かう。『一遍聖絵』に登場する市の様子からは、刀や備前焼の器を売っていたことが読み取れるとのこと。描かれた場所はどの辺りであったのか、当時の賑わいを想像しながら歩く。二十分程で吉井川にかかる備前大橋に到着。見晴らしが良く、川はもとより今歩いて来た福岡の家並みが見渡せる。ここから休憩地の公園まで一気に歩く。昼食後、慈眼院へ。寺の創建は奈良時代と古く、長船刀匠の菩提寺でもある。境内には、江戸時代から明治まで続いた祐定という名の刀匠のひとり「横山上野大掾祐定」の墓や、最後の祐定が寄進した梵鐘がある。続いて、鞆負神社へ向かう。眼病平癒の御利益があり、足利尊氏とも関わりのある神社だそう。鳥居の近くの松林には「天王社刀剣の森」の案内板があった。かつて尊氏が祈願成就の御礼に九州日向から持ち帰った松を寄進したとのこと。備前焼らしき狛犬も、焼き物の産地ならではのものと興味深い。最後に刀剣博物館の目の前にある城の内へ。壕と櫓を備えた刀匠の屋敷跡で、周りの畑からは

金糞が出土しているようだ。ここでようやく十四時になり、刀剣博物館の中へ。「瀬戸内市の名宝展」の会期中で、一階には慈眼院や靱負神社の奉納刀が展示されていた。二階へ上がると部屋の真ん中に「山鳥毛」の展示ケースがあった。ひとり二分の制限時間、午前中に聞いた見所を必死に思い出しながら見学する。太刀の大きさに驚き、刃こぼれや刃文の迫力に圧倒され、あっという間に時間が過ぎてしまった。

今回の例会で歩いた場所には、かつて起きた川の大氾濫の影響か、日本刀の一大産地として栄えた頃の町の様子を連想させる痕跡は残っていないように見えた。しかし、伊東先生の解説を聞き、刀剣博物館に展示された備前刀を見学することで、往時の繁栄ぶりを想像することができた。恥ずかしながら今まで、日本刀を目にしても、その産地の歴史や刀工にまで思いを巡らせることが少なかった。この例会を機に、他の産地も訪れてみたいと思った。最後に、熱心に案内してくださった伊東先生、並びに例会の準備・段取りをしてくださった友史会運営委員の皆様から心から感謝申し上げます。

長野県 吉見寿美恵

【記録写真】

集合 JR 長船駅



備前福岡地区にある妙興寺



妙興寺内 山鳥毛デザインのタオルで説明



福岡の市



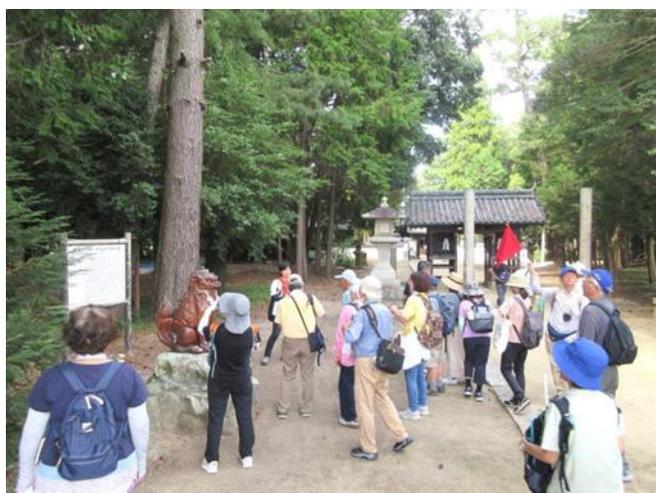
備前長船を歩く



慈眼寺



韮負神社



韮負神社 刀剣を祀る



「山鳥毛」 刀剣博物館（一人2分間の観覧制限時間）



稲穂の中を歩く



以上